

○アカヒゲホソミドリカスミカメ

【生態と特徴】

成虫は年4～5回出現し、主にイネ科雑草の葉鞘内で卵越冬する。第1世代成虫が5月中旬頃、第2世代成虫が6月下旬、第3世代成虫が7月下旬、第4世代成虫が8月下旬～9月上旬、第5世代成虫が出現する場合は9月中旬以降にそれぞれ出現する。

イタリアンライグラスなどのイネ科牧草やイネ科雑草の穂を吸汁するが、イネが出穂すると水田内にも侵入して吸汁加害する。口吻が弱いため、加害部位は頂部や鉤合部が多い。また、割れ筋が多いと被害が増加しやすくなる。

成虫は体長6mm程度で、体型は細長い。体色は淡緑色だが、触角が赤いのが特徴である（写真）。

【防除対策】

防除は、水田周辺及び水田内のイネ科雑草の管理と乳熟期の薬剤防除が主体となる。水面施用剤を使用する場合は出穂期～穂揃期に施用する。詳細は「斑点米カメムシ類の防除対策について」を参照すること。



写真 アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫